

美浦村立小学校の適正規模並びに適正配置（案）に関する村民説明会会議録

日 時：令和元年6月14日（金）午後7時～8時25分

場 所：美浦村中央公民館大ホール

参加者：33名

1 開会

2 委員長あいさつ

3 美浦村立小学校の適正規模並びに適正配置（案）についての説明

事務局：美浦村立小学校の適正規模並びに適正配置の案についてご説明を申し上げます。

失礼して、座って説明させていただきます。説明につきましては、本日お配りいたしましたA3、二つ折の資料に基づき行いたいと思いますので、資料の方をご覧いただきたいと思います。

それでは、資料を開いていただきまして、左側のページをご覧いただきたいと思います。適正規模並びに適正配置の案についてご説明いたします。

まず、1番の小学校の適正配置の基本的な考え方でございます。学校の適正配置の方法といたしましては、通学区の変更、それと学校の統合があるとされております。本村の児童数の現状と将来を考えますと、通学区の調整のみでは将来的に安定した望ましい規模を確保することは難しいことから、統合を考えるのが妥当と考えております。

次に、2番の小学校の適正配置の方法についてでございますが、四角にあります①から⑥のことについて配慮をしながら、適正規模を確保するために統合を考え、その方針については（2）にありますことについて、第3回の検討委員会です承をいただいているところでございます。

内容といたしましては四角にありますように、学級数についてはクラス替えができる1学年2学級以上とすること。1学級当たりの児童数については、1年生2年生については1学級35人以下といたします。3年生から6年生は1学級40人以下とし、35人を超える学級が3学級以上となる時には1学級増やし、それぞれに担任を配置し、35人を超える学級が1学級または2学級のときには、各学級に非常勤講師を1名配置すること。また、二つの学年で児童数が16人以下となりますと複式学級となりますが、複式学級にはならないようにするということが検討委員会です承されております。

そして、1番下の四角にあります適正配置に関する方針といたしましては、

- 1、適正規模を実現するため、村内小学校の統合を実施する。
- 2、木原小、安中小、大谷小の3校を対等統合し、新しい小学校をつくる。
- 3、遠距離通学となる場合は、通学手段としてスクールバスを運行する。
- 4、現施設を利用した統合の場合は必要な施設を整備する。

という案について現在検討委員会で検討を重ねているところでございます。

次に、右のページに移りまして、適正配置を実施するための統合案でございますが、下の四角にあります①から⑦の7つの案の中から統合案を答申したいと考えてございます。まず前提といたしまして、四角の上2行にございますように、村内の小学校は3校とも築40年を過ぎており、このまま統合しなくても、今後10年を目途に建て替えが必要となつてまいります。

それでは、①から⑦の統合の種類の説明をさせていただきます。

①から③につきましては、今ある小学校に3校を統合し、新しい学校として今ある施設を利用するというものになります。

この種類のメリットといたしましては、3校が統合いたしますので、適正規模である1学年2学級を確保することができます。デメリットといたしましては、①の木原小に統合する場合は、現在の木原小の施設では教室の確保ができないため、校舎の増築が必要になること。また、給食室も改修が必要になること、さらに安中小、大谷小の全児童がスクールバス利用となることから、①から③の種類の中では、2番目に費用がかかることが挙げられます。②の安中小に統合する場合のデメリットは、木原小に統合する場合と同じように、校舎の増築及び給食室の改修が必要になること、木原小、大谷小の全児童がスクールバス利用となることから、費用が1番かかることが挙げられます。③の大谷小に統合する場合は、この種類のみのメリットとして、教室数が多く、現在の施設を利用できるため、校舎改修の費用が少なく済むこと、新しい給食室で対応ができること、木原小、安中小の全児童がスクールバス利用となりますが、費用が1番かからないことが挙げられます。

デメリットといたしましては、運動会等の学校行事の際に、保護者の駐車場の容量が不足すること、それから、教室は足りませんが職員室などの一部改修が必要なことなどが挙げられます。次に、④の校舎を新たな場所に建設し、3校が統合するというものでございますが、この種類のメリットといたしましては、①から③と同じく3校が統合いたしますので、適正規模である1学年2学級を確保することができ、新校舎ですので快適な環境で学ぶことができること、将来的にも仮校舎を建設する必要がないことなどがあります。デメリットといたしましては、新たな校舎を建設しますので、用地の確保や施設建設の費用負担が大きいことや、用地取得や校舎建設の期間が長くなり、複式学級の解消が遅れ、適正規模の達成が遅れることが挙げられます。具体的に申しますと、新たな校舎建設の用地取得から完成まで最短でも5年ほどかかる見込みですので、安中小が複式学級となる見込みの令和4年度に新しい校舎が完成することは、非常に難しいということが考えられます。

次に、⑤から⑦につきましては、今ある小学校に3校を一旦統合し、新たに村の中心部に新しい小学校を建設し、完成後に移転するというものになります。

⑤から⑦の共通のメリットといたしましては、①から③の場合と同じく、速やかに複式学級の解消が図れることとなります。また、新校舎を建設後のメリットは④の場合と同じとなります。デメリットといたしましては、④の場合と同じく新校舎の建設費用がかかることと、建設予定地を村の中心部と考えておりますことから、スクールバスの費用負担が、木原小に統合した場合、大谷小に統合した場合より大きくなることが挙げられます。

次に、その下の表につきましては参考資料といたしまして、3校の児童数を合算した令和10年度までの学級数と児童数の見込みとなっております。木原小学校につきましては、6から7学級ということですので、ほとんどの学年が1学級となります。安中小学校につきましては、令和4年度から5学級となりますので、2年生、3年生が複式学級となり、令和8年度と10年度には4学級ですので、複式学級が2学級となり、複式学級とならない学年でも1学級10人程度の少人数学級となります。大谷小学校につきましては、全学年2学級以上を維持できる見込みとなっております。なお、表の上のアンダーラインの部分にありますように、平成30年度の本村の出生者数は80名であり、木原小学校区17名、安中小学校区7名、大谷小学校区56名となっております。令和7年に1年生となる年代ですので、3校を統合した場合でも、1年生2年生のときは3学級ですが、3年生以降は、2学級となる見込みとなっております。

次にめくっていただきまして最後のページになりますが、こちらには木原小学校で行いましたアンケートの結果を載せてございます。このアンケートの結果につきましては、検討委員会の中で木原小PTAから報告されたもので、パブリックコメントと本日の村民説明会の資料に載せると検討委員会で決定されたため載せてございます。

最後に資料にはございませんが、今後の検討委員会のスケジュールについてでございますが、現在行っておりますパブリックコメントと本日の村民説明会での意見を次回の検討委員会に報告し、適正配置を決定いただき、9月には村長に答申をしていきたいと考えております。

以上、説明とさせていただきます。

4 質疑

参加者：先ほどの教育長のお話で、これまで5回会議を行ったということなんですが、私、3回目だと思うんですが、傍聴しました。そのときの資料がこれだと思いますが、その5回やってどこまで進展して行ったのか。あるいは、逆に、5回やった中でどういうことが問題点になっているのか。それをまず説明いただきたいと思います。せっかく5回もやったんで、それ等をひっくり返すようなことも、ここではあると思います、場合によってはね。ですからそのことをまずお伺いしないと、進みづらいかなという感じで、以上です。

事務局：5回目までの進展についてであります。5回目までで委員会として決まっているところは、適正規模の方針について、そこまでは委員会として賛同をいただいたところであります。今日お配りしている資料ですと、1ページ、2ページになりますか。そこの中段にゴシック体で四角の中に書いてありますけれども、適正規模に関する方針というところ。こちらが委員会としては、方向性が出ていたところ。問題点というかまだ決まっていなかったところは、この適正規模を実現するためにどういった適正配置、というものをやっていくかというところ。それについて今議論しています。俎上に上げさせていただいているところが、見開きのちょうど2、3ページのところにあります統合の類型というところ。①から⑦まで提示させていただいておりますけれども、現在、検討委員会としてはどの案にするかというところについてはまだ決まっておりません。パブリックコメント、あるいはこの説明会の中では、今、こういった適正規模というものの方針を委員会としては1回出させていただいた上で、統合の案というものが①から⑦というところで今議論していると。この、①から⑦の案について皆さんのご意見をいただきたいという趣旨であります。

参加者：今、大谷小学校に2年生と、美浦幼稚園の年長に通わせています。平成34年度、令和4年度に、2、3年生からの複式学級となる見込みということなんですけれども、それをしないようにということで話を進めるのであれば、今もう、令和元年で新しく校舎を建てるのであっても5年かかるということでは、どう考えても1回どこかに、安中小を統合して、それから新しく校舎をつくるなりとかする方法しかないんじゃないかなって思うんですけれども。3校を1校に統合するっていうことは、5年かかるので令和4年度に複式学級ができてしまってもしょうがないということなんでしょうか。

事務局：今我々が考えますのは、この適正規模、クラス替えができる1学年2学級以上の、全体の学校で12学級以上というところの方針として出させていただいているわけで、この方針に合わせるためには、三つの小学校を統合することが大前提になってくると考えています。従いまして、例えば大谷小学校と安中小学校のみ統合すればいいじゃないかというお話については、そうする

と木原小学校が今適正規模ではありませんので、適正規模でない小学校が残ってしまうということになります。従って、私たちの方で、そういった意味で提示させていただいているのは、①から⑦のいずれも三つの小学校を再編統合して、新たな小学校をつくるというところが基本の考え方、そこまでつくった上で、どういった手順を踏んでいくかというところがそれぞれの場所なり、1段階とするのか2段階統合とするのか。それとも、校舎ができ上がってから統合するのかというところのバリエーションというか、そういった違いが出ているというところでもあります。

参加者：そもそも論で大変申し訳ないんですけど、適正規模の反対語ってというのは何でしょう。

事務局：適正規模を満たさないということです。

参加者：何かその適正規模っていうと、それに満たないと不適當、まずいというようなイメージがあるんですけど、学級数あるいは1学級の生徒数がある程度数がないとまずいっていう、何か教育上の問題があって、それについて村のほうから、こういう問題を検討してやってきたのか、あるいは文科省の方針で、そういう適正規模による適正配置というようなことで、そのままおろしてきているのか、その辺です、ちょっと気になるのは。それで特に、この事務連絡ですかね。文科省のほうの事務連絡とか、通達までいってないんでしょうけど、その手引きの中でも考え方いろいろ柔軟に考えるべきであるっていうことも手引きの中にありますので、もっと何か、もう、はなから適正規模っていうことを前提として言うのと、何かもう、絶対この方針でいかなきゃいけないんだみたいなことになってしまいますけれども、そもそも教育上、その学級、例えば25人のクラスと10人のクラスと比較した場合に10人のクラスは教育上非常に問題があるとかそういうことで教育委員会のほうで検討をされたのか、その辺のことについて、もっと説明をお願いいたします。

事務局：適正規模に関しては、適正規模法とか、そういう法的な縛りはありません。いろいろな法律で強烈に、しなければならないというふうに定められているものではありません。そういった中で、特に適正規模に関しては、県の指針というものが出されています。県の指針でもあくまで指針でありますので、条例でも何でもありませんので、あくまで指針です。これについては、小学校についてはクラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級以上が望ましいというふうに指針には規定されています。当然ながら適正規模、1学年2学級以上の12学級以上という規模について、これより、1学年10人でクラス替えもなく6年間そのままと、そういったものをどちらがいいのかということについては、私はそれぞれの皆さんの価値判断があると思いますので。それについては皆さんのお考えがあつてしかるべきかと思っています。という中で、私、これは正式に検討委員会のほうで方向性がまだ出たわけではありませんので、これは私の思いとして、お話をさせていただければと思いますが、適正規模になるということと、小規模校のままいくということについては、両方メリットデメリットがあると思います。おっしゃるとおりであると思います。そういった中で、両方比較した中で、私といたしましては、適正規模の小学校を作る、新たに創設するというもののほうが小規模校をそのままにしておくよりは、メリットが大きいのかというふうに判断しています。仮に離島とか、完全に物理的に人の行き来ができないというところであれば、それに徹して、小規模校で行くということは十分ありますし、そうしなければならないところがあると思いますが、美浦村においては、先ほど説明しましたように、三つの小学校が一つになれば、適正規模、いわゆる切磋琢磨して人間性とか社会性というのを十分学んでいく、そういった環境をつくることができるということでもありますので、私はそういった環境がよりよい教育環境だと考えています。従いまして、そういったことも可能であるのであれば、この段階で周りの市町村もかなり統合が進んでおります。周りがやっているから美浦もやるのかというところは、それぞれまたお考えがあるかもし

れませんが、少なくとも私が思うのは、小規模なまま、このままいくと複式のような可能性のある学校が存在している。片や、ほかのもう一つ、残りの例えば具体的に木原小学校でありますけれども、木原小学校であっても、将来的には今年生まれた子どもが 17 人ということであります。単独で行ったとしても、かなり私は厳しい状況になっていくのかなと思っています。そういったことも踏まえて、私はまだこの余力があるこの段階で方向性を決めて、新しい小学校の建設に向けた、そういった前向きな議論というものをしていきたいと考えています。

参加者：基本的に、私の考えを言えば、統合に私は賛成なんです。複式学級っていうのはちょっと、非常に大変なんですよ。私、教員を 40 年近くやっていました。複式学級を担任したこともあるんです。それは木原小学校土屋分校というのがありまして、今は、大谷小学校に統合されています。その土屋分校で複式学級を 2 年間、持ったことはある。3、4 年生を私は担任したんですが、片方が 3 年生の授業をやっている、教師が向かい合っているときには 4 年生のほうは自習、4 年生が勉強しているときには、3 年生が自習、子どもたちをどう上手にローテーションをつくっていくかっていうのが非常に難しいんです。教師の能力の問題もあると思いますが、私、多分能力がなかったと思うんですけど、ほんとに大変な思いをしました、2 年間。従って子どもたちもね、一体何を学んでいるんだっていうことが、曖昧になってしまうんです。もちろん複式用の教科書はございます。それから、そのことが一つ、複式学級というのは大変ですよ、学力低下につながりますよっていうこと。よっぽどのあれがない限りはね。それからもう一つは、やはり今、私は遊び場というのをやっているんですが、大谷小学校、木原小学校、安中小学校と三つの小学校で子どもたちの遊びをやっておりますが、非常に 3 校にそれぞれの特徴があります。良いとか悪いとかいうことは別としてね。その 3 校の特徴を一つにまとめると、非常に大きいプラスになっていくんじゃないかな。三つの学校が集まってね、それぞれの個性のある子どもたちが集まる、そのような二つの理由で、やっぱり統合をしたほうがいいかな、これが私の考え。それから、あと、2 ページ目の③の適正配置を実施するための小学校統合案というのがありますが、七つの案がありますが、これ質問なんですが、①から③までと⑤から⑦までは、具体的にどういうふうに違ってくるのかな。この左側に書いてありますが、ちょっと理解できないんです。同じことじゃないかっていう感じはするんですが、その説明を。

事務局：①から③と、⑤から⑦の違いでありますけども、①から③の案については、既存の小学校の場所を利用して 3 校を統合するということまでで、終わりと。それ以上のスケジュールといいますか、それ以上のところは考えないということでもあります。あくまで今建っているそれぞれの三つの小学校のいずれかの教室を使って三つの小学校を再編統合すると。吸収ではなくて、新たな校名をつけて小学校をつくるということです。ただ、既存の場所を使っただけで終了ということが①から③です。⑤から⑦については、2 段階統合ということで、既存のいずれかの三つの小学校の場所を利用して、一旦 3 校を再編統合します。そこで、新たな小学校が始まるわけなんですけど、一回そこで統合した後、第 2 段階としまして、新たな場所に用地を確保した上で、新しい校舎をつくって、そこに移転すると。これが第 2 段階になりまして、そこに子どもたちが入っていくということでもあります。ですから⑤から⑦まで、新たな小学校、既存の小学校を利用した後に新たな場所に小学校建設してそこに子どもたちが新たに入ると。大きな違いというのは、新小学校、40 年以上それぞれの学校が経過していますんで、いずれにしても建てかえの時期というものは出てくると考えています。そういった意味で、統合を機に新たな小学校をつくってそこに新たに移転しましょうということが⑤から⑦であります。

参加者：この七つの中ではないんですけれども、例えばその複式学級だけを解消するために、例えば安中小を木原小または大谷小に1回統合して、その後新校舎を建てたときに、3校を3校っていうかそのときは2校になりますけれども、一緒にするっていう方法は案の中にはないんでしょうか。というのは、例えば木原小を⑤の案とか、木原小を利用し3小学校一旦統合となると、かなり費用がかかってくるかなと思うんですけれども、例えば大谷小学校に一旦安中小を統合っていうことになると、それほど校舎を増設する必要もないと思いますし、費用の面でもいいのかなとは思ってますけれども、そういう考え方は、ないんでしょうか。

事務局：今のお話でありますけれど、資料を開いていただいて、左側のところですね。適正規模に関する方針というものがあります。あくまで、この適正規模、1学年2学級以上、学校全体で12学級以上。そういう適正規模を実現するということを考えていくと、例えば、大谷小学校と安中小学校を一緒にした場合ですね。大谷小と安中小の統合校は適正規模が維持できますが、木原小学校がそのままですと、適正規模が維持できないということになります。そのためこの方針には合わないということになります。次の案として、例えば木原小学校と安中小学校が統合して大谷小学校がそのままで存続すると。その後また一緒に統合するということですが、安中小学校と木原小学校を統合したとしても、全ての学年で1学年2学級以上ということを実現はできないという試算ができておりますので、従って、適正規模の学校を実現することができないということになるので、この適正規模の方針に従ってやっていくためには、三つの小学校を統合するという選択肢に絞られてくるということになります。

参加者：それは最終的な目標であってはいけないのかなと思うんです。現に今大谷小は、この適正規模を満たしていて、安中と木原は満たしていないっていう、既にその現状になっているので、段階を踏んで費用がかからないようにやっていくっていうようなことはできないのかなと思うんですがいかがでしょうか。

事務局：私としては、委員会の中で適正規模の方針というものについて承認をいただいたのであれば、これを実現するために考えるということをやりたいと考えています。段階的な統合というものについては、いろいろ考えはあるかもしれませんが、やはりあの三つの学校がある中で、このときにこそ一緒に再編統合するというのが、私は1番いいのかなと思っています。結果的に二つ、先行統合して後から一つ加わるということになると、やはり私は吸収統合というやり方はよくないのかなと個人的には思っています。やるのであれば、3校対等の再編統合、新しい小学校をつくっていくというところを目指すのが、将来を考えれば1番いいのかなと。費用的なところをいろいろ考えていくと異論があるかもしれないですが、ある程度の学校の良い環境を維持するためには必要だと思いますし、まだ決まったわけではありませんけれど、例えば、木原、安中、大谷の三つの小学校の中では大谷小学校が非常に人数が多くてクラス数が多い時代がありましたので、校舎の余裕といいますか、施設としての余力がかなりあるので、仮に三つの小学校を再編統合とした場合、費用的なものというのはかなり抑えることができるのかと考えております。木原小学校なり、安中小学校の場所を利用するに当たっては、今の教室数では足りないの、新たに増設なり、そういったものが必要になってくると思いますが、費用面で考えると1番大きい規模の小学校を利用して速やかに適正規模を実現することが、決断すれば可能な状況にあると考えています。

参加者：今、話出しましたこともあったんですけども、非常に今日来ましてですね、非常に悲しい気持ちになってますね。やはり、この少子高齢化、日本が全部そうなんだろうけども、そこにですね、

人を増やそうとか明るいまちづくりとか言っている割にはですね、そちらに能力をかけてどんどん人を増やそうと新しい人を増やそうという考えはないでしょうかね。今おっしゃったその2段階っていうことがあると思うんですけども、やはりその適正規模に、なぜそこまでこだわるのかってというのは、ちょっとまだ腑に落ちないんですけど、よろしく願いいたします

事務局：新しい人を増やすという、村の人口を増やしていこうという政策は、当然ながら村でも、定住促進策であるとか、そういったものをやっていますが、日本全国でここ5年間だと毎年17万人が減っているという状況があります。17万人というのとどのくらいかという、青森県の弘前市くらいの人口が日本から消えてなくなっていくと。そういった中で、新しい人を増やしていく、私もこれができれば1番いいと思うんですね。実際にTX沿線、つくば、つくばみらい、守谷、増えています。つくばは物すごい勢いで増えている。牛久もひたち野うしくなどがかなり元気がいいので増えていると思いますが。我々行政を預かっている立場から言わせていただくと、ギャンブルはできないと思っています。あくまで堅いところの人口を見ていった上で、できるだけ良い形の環境をつくっていくのが、私たちのやるべきことだと考えていますので、新しく人を増やしていきたいと私もしていますが、できるだけ、逆説的なことになるかもしれませんが、私は、適正規模、切磋琢磨できる、クラス替えができる環境がより良い教育環境だと思っていますので、そういったところを実現することによって、美浦村に住んでもらえればと思いますし、逆に、非常に1学級当たりの人数が少ない中で学んでいる子どもたちの状況をそのまま放置してしまったら、それを理由に村から出て行く人が逆に出てくるのかなというふうに、それを大きく危惧しているところでもあります。適正規模についての価値判断というのは、それぞれだと私は思っています。ですから、私の考えを皆さんに押しつけるとか、ご理解いただくということはいたしませんけれども、小規模校のメリットも確かに一人一人に行き届いた教育ができるという非常に大きいうまいがあると思いますが、私としては、クラス替えができて、将来社会に出ていくわけですから、社会性を身につけて、切磋琢磨できて、クラス替えができれば、いろいろな困難な状況になったときに、心機一転することもできますので、そういった良い環境というのをつくるのが美浦は可能であるわけなので、そちらのほうに私は力を傾けていきたいと考えています。

参加者：はい、だからどんどん人が減るっていうことで考えているわけですね。それであれば、今、急に3校を1校にするのではなくてですね、安中小例えば木原小におとしてでしかるべき。減っていくってことであれば、今度中学校もどんどん減っていくわけですね。そうすると中学校もあいてくる。そしたら小中一貫ですかね、それも考えられると思うんですけども、その辺はどうでしょうか。

事務局：人口の減少の度合いとか、そういったことから考えていけば、非常に残念なことかもしれませんが、将来ですね、今の美浦中学校に小学校から中学校まで全て入ってしまう可能性があり得るかもしれないと思います。しかしながら、そうなるまでの間に、複式学級の状況でいる小学校の子どもたちがずっと存在していると、そういった状況にいる子どもたちを何もせずに、我々が減るのを待って、費用がかからないから、例えば美浦中学校に全部納まるまで、三つの小学校にそのままいて学んでもらうのかということについては、これがいいというお考えの方もいらっしゃるかもしれませんが、私は、そういったことはしたくないと思っています。できるだけ3校まとまれば、良い人数といえますか、クラス替えができる環境を作れるわけですので、できるだけ同じ村に生まれ育った子どもたちについては、同じ環境で教育を受けさせてあげたいというのが私の考えであります。

参加者：いやそれならですよ。複式学級がだめっていうか、当然、何ですかね、複式学級じゃなくて1学年2学級以上とかって、これ書いてありますけども、複式学級じゃなくて、さっき言ったように、例えば安中小をですよ、大谷小とか、木原小とか近くに行って2段階、それで新設校をつくるのであれば、さっき言ったその小中同じところですね、学びをつくってですね、やればいいんじゃないでしょうかね。例えば、プールにしたって、今美浦中だって、プールはないんですよ。ジョイフルですか、民間のところに行ってやっているわけですし、運動会にしてもですね、例えばその光と風の丘公園を有効利用すれば使えるわけですから、何も新たにづくなくてもいいわけですよ。そういうちょっと長いスパンで考えるんだったら、とりあえずその急遽三つを一緒にして、慌てなくてもですね、段階的にやっていけば、一つの方法ではないかと思います。

事務局：段階的にやっていくのも一つの方法だと思うのですが、適正規模を実現するということであれば、1校を残して2校統合ということでは、残りの学校の方は適正規模維持できないということでもありますので、三つの学校を統合していくのが、適正規模を実現するということであれば、その選択肢かなと考えています。実際に令和4年度から複式学級が生じるということで、それは生じさせないようにと私は考えておりますが、なぜ急ぐのかというところもあると思いますが、物事を決める時というのは、これは私の価値感ではありますが、やはり、決めるときに決めておかないと、後々10年20年後に非常に後悔することになると考えております。今は恐らく安中小学校があまりにも人数が少ない状況でありますので、大谷小学校、木原小学校どちらかに一旦統合すれば、複式が生じないからよいのではないかというご意見の方もいらっしゃると思うのですが、今、決断しておかないと、10年後20年後になった時に、なぜそういうことをしなかったのかということになりかねないと、私は思っています。これは仮定の話でありますけれども、今、可能な時に、思い切って新しい小学校を将来の子どもたちのために、新しくつくり上げていくんだというところに重きを置いて、ご理解いただければと考えております。

参加者：今日はパブリックコメント、なんでしょうけれども、これだけ小人数しかいないので、私の少数意見でありますけれども、もっと広く、例えば安中小学校区の方たちがですね、安中地域で学校がなくなっちゃうわけですから、木原を含めかもしれませんけれども、そういったところも考えていただいて、美浦村発展をですね、後継するような形で皆さんの意見を広く聞いていただいて、これが適正規模ありきとか、そういうあくまで方針であるので、そこら辺もですね、全て広く意見を聞いた中で決めていただきたいなと思います。

事務局：意見をお聞きするというので、今回、村の各世帯に、今の我々が委員会で議論しているところの資料を配らせていただいたというところであります。それぞれ、今日の説明会だけでなく、パブリックコメントですので、アンケート的な形で箱に入れていただいてもいいですし、ホームページなり、メールで送っていただいても結構なのですが。小学校が仮にですね、この答申が出された後、統合ということで、これまであった小学校がなくなってしまうという非常に地域にとっても大きい問題だと思いますので、当然ながら、小学校のあり方その方向性が決まった後、今ある小学校の利活用というか、それをどういうふうに活用していったらいいかという話し合いといたしますか、検討もすぐに始めるようなことで考えています。当然ながら、今ある小学校の方向性というのが決まらないと、なかなか動き出せないところがありますので。方針が決定すれば、今ある小学校のあり方、あるいは新小学校を建設するのであればどういった場所がいいのか、どういった規模にするのかとか、どういった中身にしていくかということも、委員会なりを設置して、すぐに話し合いといたしますか、調整に入っていきたいと考えております。

参加者：まだ娘は1歳半という状態なので、まだ小学校は先なんです。先ですし、大谷地区ということなので、複式学級っていうことにはならないと思うんですけども、まず小学校の状況を十分に把握できていない状態で、こちらに來させていただいて、安中小と木原小が、いろんな大臣からの賞をいただいたりとか、そういう少数人数だからこそできているんじゃないかなって思う部分もありますので、ハード面をもちろん統合して、そこから人数を確保することによって、学業アップ、また運動もっていう部分があるとは思いますが、できれば、ソフト面を配慮していただいたような形で未来設計を、検討していただけたらなという思いがありまして、ちょっと今來させていただいております。大変騒がしくさせてしまって申しわけないんですけども、皆様の意見をちょっと生の声として聞きたいなと思ったので、來させていただいてますので、大変申し訳ありませんが、このまま参加させてください。

参加者：1番上の娘が中学校1年生なんですけども、安中の中1の同級生は8名だったと思います。小学校1年から6年まで8名でクラス替えもなく過ごしてきました。クラス替えが、適正規模のクラス替えがそんなに大切だったら、どうしてもっと早くの段階で動こうとしなかったんでしょうか。今までの中1の、それ以外の学年もほとんど1クラスだと思うんですけども。そのクラス替え、適正規模をそんなに重要視するんだったら、何でもっと早くやらなかったのかということと、やはりその今から複式学級になるからこうやって多分慌ててると思うので、まず複式学級を解消すれば、私はいいのではないのかなと思いますけども、いかがでしょうか。

事務局：この議論が余りにも今の時点では遅い、遅いのではないのかというかもっと早目にできたんじゃないかという話ですが、確かにそれもあつたかもしれないと思います。しかしながら、過去の経緯といますか、その辺のところ、何と言いますか、今、過去に戻る訳にもいかないので、今この段階で、すごく急いでいる感があると思いますが、こういった子どもたちの状況を考えればすぐにでもやらなくてはいけないというところは理解していただければと思います。複式学級を解消すればということでありまして、適正規模の方針というものが、委員会として出されているところでありますので、この規模、適正規模を満たす規模の学校をつくるということであれば、単純に複式学級の学校を解消するだけでは、十分この方針には、方針に合致したものではないということでもあります。あくまで適正規模を実現するためには、複式学級の解消のみではなくて、クラス替えができる1学年2学級以上、一つの学校で12学級以上の規模の学校をつくっていくということが必要だと考えています。

参加者：先ほどお話ししましたように私個人としては、学校の統合賛成なんです。七つあるうちの大きく分けると二つになると思うんですよね、結局。新校舎をつくるか、新校舎をつくらないか、統合するという前提に立った場合ですよ。七つのうちのね、これはちょっと無理なんじゃないかなってというのが幾つかあるんですよね。こちらよりどう考えてもこちらのほうがいいよというのがあると思います。場所的に、費用的に、それからもう一つは新校舎をつくるだけの予算があるのかどうか、新校舎をつくるという方向になった場合にね。そのことをちょっとお伺いしたいんですが、新校舎をつくるという案、すなわち④から⑦までの場合に、そのようなお金があるのかどうか、村の財政ね。

事務局：新校舎を作るという方針が出されれば、毎年、それに向けた基金の積み立てというものを行っていった上で作ることが可能であると考えています。美浦村の財政状況を申し上げれば、いわゆる公債費比率ということで、どのくらい余力があるかという柔軟性があるかというイメージの指標だというふうにざっくり言うと、県の中で、良いほうから7番目であります。公債費比率はですね。ですから、美浦よりも悪い財政状況の自治体でも、新設小学校というのをつくっておりますので、

美浦村としては十分新しい小学校をつくることは可能であると考えています。

参加者：新しい校舎をつくる場合に、今積み立ててというお話ありましたが、積み立てていくと何年ぐらい先に新しい校舎が建つのか。積み立て終わってから建てるわけじゃないと思うんですが。

事務局：基金の積み立てをした上で、あとは起債を起こすというような形になると思います。実際どのくらいの年が必要になるかというところでありますけれども、確定的なところは具体的にはまだ申し上げられませんが、私の感覚的なところということでお話しさせていただければ、最短で5年程度かなと思います。実際に校舎の建設については、3年ほど近隣の状況を見るとかかっています。それプラス、新たに用地を取得するのであれば、そのための日数というのはどのくらいなのか1年2年3年かかるかわかりませんが、そういったものを合わせた上で、その間に基金の積み立てなり、していけば十分可能であると考えております。

事務局：私のほうから先ほどの①から⑦の中でおおよそ無理な計画が載っているというご質問についてお答え申し上げます。これにつきましては一つの学校に例を挙げて、資料記載すると不公平であるので、全ての学校にということが検討委員会のほうでございましたので、見られて無理かなと思うようなところでも、全ての学校の案を載せたということでございます。

参加者：私が気になっているのは、村の教育委員会、教育行政を担当されている方たちの主体的な動きとしてこういう問題について考えてきたのか、あるいは平成29年度ぐらいからでしたっけ、こういうこと、文科省とか言ってきたのは。もっと前でしたかね。何かそういう上からおりてきて動き出しているのか、そこがすごく気になってるんですよ。子どもたちにこういう教育を与えたいっていう発想からこういうことを、自ら考え出してきたのか、ただ上からそうしなさい、県からそうしなさいという指導とかでやってるんであれば、何かすごくね、子どもたちのことを本当に考えてやってるんですかって言いたくなるんですよ。いただいた資料の1番最後のページを、参考ということにはなってますけど、木原小学校PTAのアンケートっていうのを見せていただきましたけど、これって三校単独で存続っていうのが1番何か意見として多いっていうふうに理解しているんです。何かほんとにその住民の意見だとか、それから極端に言えば子どもたちの学びっぷりとか、そういうところから発想されてきたのか、そこが1番肝心なところだと思うんですよ。上から言われてやるだけっていうのじゃただの、本当の教育を教育委員会っていうのは住民たちがつくっていくところであって、上からの指令を受けてやる所じゃないですから。だからそこがすごく気になってるところなんです。答えにくいかもしれませんが。

事務局：今回のあり方検討委員会を設置した直接的な理由というのが、村長からの諮問を受けてということではありますが、これはあくまで村長の諮問というものが一つでありますけれども、私の個人的な意識としては、例えば、安中小学校の運動会を見た印象、あるいは、各クラスの中で学んでいる子どもたちの人数の少なさ、特に、体育とか音楽の時間、ああいったところを、私は就任してから何回も見せていただいておりますけれども、ああいった環境というものは、できるだけ早く解消してより良い教育環境をつくってあげたいなというふうに思っていました。従いまして、県の方針が平成20年度には示されていますけれども、そういったことがあるからということのみで始まったことではなく、子どもたちにとってより良い教育環境というのを実現するにはどうしたらいいかという、そういう強い課題意識を持って、私としても検討委員会を設置して始めた次第であります。

参加者：私は個人としましては、今、各小学校3校を子どもの遊び場として回らせていただいております。それで15年間回らせていただいて感じていることは、各3校ともそれぞれ特色があって、そのまま残しておきたいという思いがあります。これで統合してしまうことによって、安中地区は過

疎化してるのがますます過疎化になってしまうと思います。それで、私は耐震構造が10年しかもたないのであれば、10年までその各3校をそのまま残してやっていってはいかがかなと思います。子どもというのは、どこに目を向けていけばいいのかといいますと、やっぱり日本を将来背負っていく子どもたちなんです。だからどういう教育をしたらいいのかっていうことを頭に描いていただければ、どのようにしたらいいのかなというのがわかってくると思います。私は、安中小をそのまま残して、ご希望であれば、小規模特認校として残していかれてはどうかなと思っております。それは、いろんな年齢が一緒になるかもしれませんけども、すごく特色のある教育をやっていけば各学校からも入ってくるのではないかなと思っております。このまんま3校が、10年後このままの状態で進んでいってほしいかなと思っております。統合することによって、先ほどからメリットのお話をなさいましたけども、本当にそれがいいことなのかなっていうことをよく考えていただきたいと思っています。なかなかそういう状態であることによって、子どもたちがどのような成長していくのかなと思ひまして、ちょっと心配になってきまして。個性がある教育をすると前々から言われながらそれが実現できてなくて、統合すれば余計それが難しくなるのではないかなと思います。小規模ながらも美浦村独自の教育をしていっていただきたいと思っております。今の人数で足りなければ、お互いもっと交流をし合ったり、また他からNHKでもやってますように課外授業みたいな、美浦村にもたくさんそういう人材がいらっしゃると思いますので、そういう方を招いて勉強したり、それから社会に目を向けるために、各企業に行っているいろんな自分たちで決めたことを勉強して訪ねてくる。そうすると、中学校に行ったときの、こうなんか縮こまって前に出られないとおっしゃってましたが、いろんな体験をさせることによって、それは可能ではないかなと思っております。いかがでしょうか。10年しか耐震構造がないのであれば、10年を目指して統合はいたし方ないのかなと思いますけども。よろしくお願いします。

事務局：3校の特色を生かして存続したらどうかというお話であります、確かにそういったご意見もあるかと思います。特に、子どもの遊び場ですね、始まった当初から今に至るまでずっと三つの小学校、子どもたちを育てていただいているというところで、3校の特色というか、そういったところは肌身で感じていらっしゃるご意見だなと思って重く受けとめております。3校生かしていくという、これも一つの考え方はあるとは思いますが、一つは適正規模を実現するというところが方針として示されているということがまずありますので、それを実現するためにはそれは難しいのかなってというのが一つあります。しかしながら、それぞれの論点と言いますか、大切なところがあると思いますので、一つ一つ答えていきたいと思ひます。

まず、もっと過疎化してしまうんじゃないかと、統合することによってですね。統合することによって安中地区から安中小学校がなくなるということによってということですが、これは私は両方の考え方があると思ひていまして。小学校がなくなることによって、地域の活力というか、そういったものがなくなって過疎化が進んでしまうというものと、逆に、複式学級、非常に少ない1学年10人前後の学校のまま10年、例えば10年程度残っていくと決まった場合には、そこに住んでいらっしゃる保護者の方が、先が、この少ない人数の中でやっていくのでは、自分としては納得できないので、逆に少ないがゆえに転居してしまう可能性、これもあると思ひます。ですから、これについて両方あり得るのかなと思ひています。

もう一つ、小規模特認校の道を探ってはどうかというお話であります。実際に小規模特認校というのは、この近くだと牛久の奥野小学校がやっています。あと県内だと、笠間市立みなみ学園義務教育学校、そこもあるようですけれども、この近くの奥野小学校の状況を申し上げますと、奥野小学

校については今、牛久市内のどこからも通ってもいいという学校になっています。それを可能にするためにバスを2ルート設けて、子どもたちがそれに乗ってくるという状況であります。ここでポイントになるのが、奥野小学校の学区の子どもたちは奥野小学校に来るという前提があります。ですから、奥野小学校の学区の子どもたちは他には行かずに奥野小学校に来る、他の子どもたちが他の牛久の例えば常磐線沿線の子どもたちがやってくるというような状況であります。奥野小学校区以外から来る子どもたちの割合は、お聞きしたところによると25%ぐらいだというようなお話がありました。そういった形をつくった中でも1年生2年生は2クラス、36人以上。若干超えるので。ところが3年生から5年生は、いわゆる41人を超えないので、1クラスになってしまうというような状況で今推移しているということであります。こういった形で小学校運営しているわけですが、特に外国語教育に関して奥野小学校は特色ある教育、牛久の中でも特別にやっているようです。そういった特色ある教育をやることは一つの方法としてあり得るのかと。奥野小学校の方がその近くにある牛久二中に進学するわけなんですけれども、残念ながら他から来ていた子どもたちが、中学校に入るのを機に元々自分たちの通う中学校のほうに戻ってしまうということが多いと伺いました。その理由としては、やはり、今、牛久二中は、3学年あわせて90名ほどらしいんですね、1年から3年。ですから、非常に部活動とかそういった活動が制限、制約されてしまうということもあって、なかなか全ての生徒が定着しないという悩みもあるとお聞きしました。いずれにしても、こういったやり方は一つの方法であると思うのですが、仮に安中小学校でそういったものを、小規模特認校というものを実現して実施するとした場合に、安中学区の子どもたちが完全に固定になるわけです。それで他の大谷学区、木原学区から来る子どもたちは選べる、安中小学校に希望すれば入ることができるということになるわけですが、そういったやり方で安中学区の保護者から理解を得られるのかどうか、私は非常にこれ難しいところもあるかと考えています。小規模校がいいというふうに考えていらっしゃる方もいるかもしれませんが、その状況ではとてもやりきれないという保護者もいらっしゃると思いますので、総括しますと牛久のように市のレベルで人口が多く、一方で地域によって偏在している、ある程度学区自体にもニーズがあるというところであれば、そういった小規模特認校というのは十分やっていく可能性があると思うのですが、残念ながら15,000人と美浦村の規模では、小規模特認校というものを維持していったときに、そこに指定された保護者の賛同というのがちょっと得られにくいのかなというふうに考えている次第であります。

事務局：お時間のほうも約80分経過しております。ご意見がそろそろ出尽くしたということであれば、ここを持ちまして質疑のほうを締め切りとさせていただきます。

本日は本当にお忙しい中、皆様ご出席いただきまして、たくさんの貴重なご意見を伺うことができました。改めてお礼を申し上げます。本日いただきましたご意見につきましては、次回の美浦村立小学校あり方検討委員会のほうにご報告をさせていただきますと思っております。

それでは、以上をもちまして村立小学校の適正規模並びに適正配置案については、村民説明会のほうを終了させていただきます。

どうもありがとうございました。